

令和8年度 学校経営方針

青梅市立吹上小学校

令和8年4月1日
青梅市立吹上小学校
校長 刀禰 浩子

1 学校経営の基本理念

吹上小学校は、全ての教職員の創造性や自発性、英知を結集し、現代社会を主体的に生きる児童の確かな成長を保障するとともに、保護者・地域社会から理解と信頼を得られる学校経営を進めていく。

- 人権尊重の精神に基づき、未来社会の変化に主体的に対応し創造的に生きていくため「豊かな人間性」「確かな学力」「健康・体力」など「生きる力」を育む学校。
- 自ら考え判断し主体的に行動できる児童、相手の立場やよさを認め合い高め合える心豊かな児童、進んで運動に親しみ心身ともに健康な児童を育成する学校。
- 『一人一人が輝き、共に生きる力』を培う教育を基盤に、一人一人のよさや可能性を十分に発揮し、心豊かで主体的に、そして創造的に生きる力を身に付けていくとともに、相互に認め合い、支え合い、協力し合い、高め合い、未来社会を心豊かにたくましく生きる児童を育てる学校。
- 創立43年目を迎える本校で、これまでたくさんの先輩方が吹上小で学んできた伝統を受け継ぎ、現在の自分たちがあることへの感謝の気持ちをもって、本校の歴史と伝統に新たなページを刻み、一人一人の児童が、充実した学校生活を送る学校。

この理念に基づいて、学校の主役である児童一人一人を大切にしながら、教職員が協力し合い、教育活動を進め学校経営に尽力していく所存である。

2 目指す学校像

(1) 学校の教育目標

『高く やさしく たくましく 自ら伸びよ 吹上の子ども』

- 「高く（知）」… 基礎的・基本的な内容を身に付け、視野を広げ、知性を高める。
- 「やさしく（徳）」…やさしくよりよく人と接する心を育て、豊かな精神を身に付ける。
- 「たくましく（体）」… 健康・体力の向上を図り、健康で強い意志を育てる。
- 「自ら伸びよ 吹上の子ども」… 自主・創造の精神をもって、意欲的に生きる。

自主創造の精神に富み、広く国際社会の中で信頼と尊敬が得られる人間性豊かな日本人を育成することを目指し、「筋道を立てて考え、表現できる児童」・「豊かな心を持ち、柔軟で適応力のある児童」・「健やかに成長する児童」を育てることは、現代社会を生きる児童たちにとって身に付けなければならない本校の重点目標でもある。この3つの柱を大切に教育活動の充実を図っていく。

(2) 特別支援学級「あおぞら」の教育目標

自立と将来の社会参加に向けて、心身の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図る。

- 自立に向けて必要な知識・技能・態度及び基本的生活習慣を身に付けさせる。
- 人との関わりを深めながら、コミュニケーション能力の伸長を図る。
- 情緒の安定を図り、心身ともに健康で調和のとれた発達を促す。

(3) 目指す学校像

児童一人一人のよさが輝いてこそ、児童一人一人にとっての「行きたい学校」となる。児童が自分の居場所や活躍する場をもてるように、学校生活の多くの時間を占める授業を充実させていく。分かる楽しさ、できる喜びを実感できる授業を追究し、子どもにとっての「行きたい学校、活かしたい（活躍できる）学校、生きたい（生き生きできる）学校」としていく。また、互いのよさを認め合い、励まし合い、ときに助け合うことで、相互に学び高め合うことができる。「みんなで学ぶと楽しい、みんなで学ぶとよく分かる、みんなで学ぶとよくできる」ことを実感し合える学校文化を構築していく。そのために、教職員が自己のもてる力を全力で出し合い、組織として高め合えるようにする。

以上のことから、「一人一人のよさが生き、お互いを高め合う学校」を目指す。

3 教育目標具現化のための基本方針

教育目標を具現化するためには、教職員と児童との信頼関係や児童相互の好ましい人間関係を基礎とした教育活動が展開されなくてはならない。そのためには、学年・学級経営の充実を学校経営の基本とし、教職員一人一人自らの専門とする教科・領域等の指導の在り方を不断に研究・工夫し、その成果を児童への指導に活かすとともに、学年担任・学校担任という意識で児童に接し、より充実した教育活動を展開していく。

(1) 「高く（知）」の育成を図る教育の推進

① 基礎的・基本的な学力の向上

生きて働く「知識・技能」を習得するため、各教科の基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に課題を解決する学習態度を養う。また、家庭と協力し合い家庭学習が習慣化できるよう徹底を図っていく。

② ICTの日常的・効果的な活用

タブレット端末、電子黒板を日常的な指導に生かすとともに、ICTを効果的に活用し、個別最適化された学びの実現に取り組む。GIGAスクール構想の更なる充実をめざし、教材の開発や指導法の向上を図るとともに、情報モラルやリテラシーも指導していく。

③ 教師の指導力向上

教師の指導力向上の視点を専門性の向上に置き、得意を伸ばし、その力をもとに互いが指導力を高めていく。また、「何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるか」の視点で授業づくりを実践しながら教員資質向上を図る。

④ 地域とともに学ぶ力の育成

地域の自然や文化、伝統に触れ、人材や施設を活用するなどして、体験的活動を重視し、自ら考えよりよく問題を解決する資質や能力を育成する。また、カリキュラムマネジメントの視点で、地域とのつながりを教科の年間計画に位置付けていく。

(2)「やさしく(徳)の育成を図る教育の推進

① 人権教育の推進

人権尊重の精神のもと、いじめ・差別や偏見を許さない指導を全校体制で行い、児童の人権感覚を高め、自己肯定感を培う。心の教育を充実させ『一人一人の輝き』と『共に生きる力』を導く。日常の取組として、あいさつと呼称を徹底する。

② 道徳教育の充実

道徳の年間計画と各教科等における道徳教育の関連性を重視し、道徳教育の要としての授業を充実させ、児童の道徳性を育成する。

③ 心の教育の推進

たてわり班活動や、異年齢集団での学びなどを通して、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」態度を育む。

④ 特別支援教育

特別支援学級・特別支援教室設置校の特色を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。

(3)「たくましく(体)の育成を図る教育の推進

① 健康・体力づくりの推進

体育指導や体育的行事などの充実を図る。マラソン週間やなわとび週間を体育科の指導と関連させ、運動の日常化を図るとともに、体力向上・健康増進に努める。

② 命を守る教育の推進

安全指導の徹底を図り、自らの生命は自分で守る態度や能力を培う。

③ 健やかな体を支える態度の育成

「言葉遣い」「勤労」「挨拶」「返事」「規範意識の育成」など基本的な生活習慣の育成と定着を図るとともに、何事にも最後まであきらめずにねばり強く取り組む態度を育てる。

4 学校経営の重点

(1) 学校経営の充実

教職員は「チーム吹上小」として、全体の組織の中で一丸となって、学校経営を充実させていく。さらに、柔軟な協力体制を工夫し、各教師が自分の持ち味や専門性を発揮することによって、より質の高い教育活動が可能になると考える。

①言語環境の整備と言語活動の充実を図り、言語に対する関心や理解を深めるとともに、言語能力を育て、その力を基に他教科、他領域の学力向上、児童の思考力・判断力・表現力等を育成していく。

②児童理解を深め、問題行動の早期発見・早期対応と未然防止に努め、いじめや不登校・荒れのない学年・学級を目指す。

(2) 授業改善と校内研究・研修の推進

「教師は授業で勝負する」「授業は教師の命」である。教師にとって最も力と情熱を発揮し時間をかける場は授業である。児童の学ぶ意欲を喚起し、基礎学力を確実に身に付けさせる授業が求められている。また、「何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるか」の視点で、児童が実感できる授業づくりの実践が求められている。そのためにも指導者としてのスキルアップも重要であると考え、次の観点で授業時数の確保ならび授業改

善と校内研究・研修を深め、児童の日々の成長につながるよう努めていく。

- ①教師自身が自分の専門分野をもち、得意を伸ばすという視点で自己研鑽に努める。また、日常の教育活動の中でお互いが得意を発信することにより教師の資質向上を図る。
- ②授業改善推進プランに基づく指導の徹底を図り、各教科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。また、一単位授業時間のより充実を図り、児童の学習への意欲を高め、「なぜだろう」「やってみたい」という課題意識や挑戦しようとする態度から「分かった」「できた」という成就感・達成感をもたせ、児童自ら学力の向上に努める態度を培う。
- ③児童の学力向上を図るために、年間指導計画に基づいて週案簿の内容を充実させる。毎時のねらいと手立てを明らかにし、板書と発問に焦点をあて、授業の質的向上に努める。
- ④話し方や聞き方などの約束の大切さを理解させ、学習規律の徹底を図り、授業を充実させる。
- ⑤研究体制や研究協議の方法などを工夫し効率的に研究を進め、児童の学力向上を図る。
- ⑥教員相互が磨き高め合い、指導方の工夫や授業改善を進めていくための機会を意図的・計画的に設け実施し、充実させる。

(3) 児童の安全確保と教育環境の整備

学校は、児童にとって安全な所ではなくてはならない。未然に事故を防ぐため、施設設備の点検などを行うとともに、安全指導の徹底に努める。万が一、事故が起きた場合の対応についても「吹上小危機管理マニュアル」を全ての教職員が共通理解しておき、いつでも迅速かつ適切に対応できるようにしておく。

- ①保護者をはじめ、学校への来校者に対し積極的に挨拶を行い、事件防止に努めていく。
- ②「環境は人を作り、人は環境を作る」と言う。「環境」は隠れたカリキュラムとして児童の成長に影響を与えるものである。教室環境や学年の掲示板など人権に配慮し、児童が意欲的に学習するにふさわしい環境づくりに努めていく。また、校舎内・外における学習環境の整備や自然環境の整備を充実させ、学校美化に配慮をしていく。

(③コロナ対応削除)

(4) 家庭・地域社会との連携

学校・家庭・地域社会が児童の健やかな成長を願い、それぞれの立場でパートナーシップを発揮し、連携を図ることが望まれている。人と情報が行き交う場としての学校を考え、共通の目標の実現に向かって家庭や地域社会との連携を図っていく。

- ①学校便り、学校公開、道徳授業地区公開講座、地域の教材化や地域の教育力の活用などを通して、相互の連携・交流を密にし、信頼関係を深めていく。
- ②家庭との連携を図りながら、「学年×10分の学習」の習慣を定着させるとともに、学校より適切な宿題(課題)を出し、家庭学習(宿題+自主学習)の充実を図っていく。
- ③HPやスクリーン配信を通して、教育活動の状況や情報を家庭や地域に発信していく。
- ④保護者による評価・コミュニティスクール委員会の意見や評価を学校経営や学年・学級経営に反映させていく。
- ⑤吹上中学校との連携をとり、中学校教員による授業を実施したり、交互に授業参観をしたりするなど、中学校との連携をより一層深めていく。
- ⑥コミュニティスクール校として、地域と一体となり学校教育に充実を図っていく。

(5) 市の学校教育推進計画（青梅市教育プラン）の具現化

青梅市では、新しい時代の本市の教育行政の確立を目指して、青梅市教育推進プランを策定し展開している。この計画を受け、本校の教育活動に位置付けたり見直したりする。

(6) 学校予算の適正な編成と執行

学校を運営する予算は言うまでもなく、市民の支払う税金によって賄われている。市教育委員会、事務室、職員室の連携を密にして、計画的に予算を編成し、時宜に合った執行を進め、円滑な教育活動を推進していく。

(7) 教育公務員としての自覚と誇り

教師は、だれもが児童にとって価値ある教師でありたいと願うもの。児童の人格形成に直接関与する人間としての責任を自覚し、誇りをもって、人間尊重の精神に基づいた学校づくりに努力していく。また、教育公務員の体罰など服務違反が後を絶たず、社会から信頼を失うことが多い現状である。私たちはサービスの厳正に努め、全体の奉仕者としての自覚をもって、改めて職務を遂行することが大切である。

(8) 校務改善の推進（働き方改革）

- ①より効率的な業務の実現を目指した工夫に取り組み、教職員の働き方改革を推進する。さらに、取組の効果等を考慮しながら、学校教育活動のスリム化を図っていく。
- ②すべての教職員の協働により学校運営を円滑に進める。
- ③ICTを効果的に活用し、授業教材や自作の学習材、事務文書等の共有化を図り、指導指技術の向上を図るとともに、仕事の能率化を図る。
- ④運営委員会において職員会議の議題調整を行うとともに、提案事項と協議事項を事前確認したり、資料や進行の工夫を行ったりして、会議や研究会の効率化・スリム化を図る。
- ⑤学校徴収金の口座引き落としで、会計事故の未然防止と業務のスリム化を図る。

5 教育活動の重点と具体的な方策

(1) 各教科

- ①基礎的基本的な内容の指導を徹底するとともに、児童に育む資質・能力の育成に向けて、「主体的な学び」「対話的学び」「深い学び」の充実を図り、授業改善を行う。
- ②児童が考えたり調べたりする活動の場や時間を確保し、体験学習や課題解決的な学習、情報活用学習などを推進し、加速的に変化する社会に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成に努める。

(2) 特別の教科 道徳

- ①自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の行き方について深く考え、主体的・対話的で深い学びによる「考え、議論する道徳」の学習を通して道徳性を育む。また、全教育活動を通して人権感覚、互いの人格を尊重する態度や心情を培い道徳性を育む。
- ②道徳授業地区公開講座を通じて、学校・家庭・地域社会の連携を図りながら、地域の教育力を活用し、人の生き方にふれる意図的な道徳授業を展開する。

(3) 外国語・外国語活動

- ①外国語によるコミュニケーションにおける見方や考え方を働かせ、聞く・話すなどの言語活動を通し、言語や文化についての理解を深め、積極的に人と関わろうとする態度やコミュニケーションの素地となる資質・能力を育成する。

(4) 総合的な学習の時間

- ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や態度を育てる。
- ②青梅学をはじめ、地域の自然に働きかける活動や人と触れ合う活動、情報機器を活用した活動などを通して、課題解決を図り、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ③国旗・国歌等の指導、自国の伝統・文化についての理解を深める取組を充実し、世界の文化を受け入れ尊重しようとする態度を身に付けさせる。

(5) 特別活動

- ①望ましい集団活動を通して、互いのよさに気づき、共に向上しようとする豊かな人間関係を育てる。
- ②児童集会を含む集会活動や縦割り班活動を工夫し、集団への所属感や自己肯定感・思いやりの心を育む。

(6) 特色ある教育活動

- ①図書活動・・・本に親しむ活動を通して豊かな心を育む。また、学校図書館司書、図書ボランティアとの連携を通して、読書活動の充実を図る。
- ②環境教育・・・ピオトープの観察活動、栽培活動などを通して、自然を大切にする心を育むとともに、環境に対する実践的な態度を養う。
- ③地域連携・・・地域の人材や自然、文化などを積極的に取り入れ、教材化を図るとともに、地域とのつながりを広げ、深めていく。

(7) 生活指導

- ①学習面、生活面、精神面での自立はそれぞれ深く関係しており、生活指導と学習指導とは一体のものとして指導していく。
- ②生活指導夕会（毎週実施）では、児童の生活指導上の喫緊の課題と指導方針について共通理解を図るとともに、特別な支援を必要とする児童に関する情報交換を行う。
- ③児童理解に努め、全教職員の共通理解のもとに、一人の児童に多くの教師が関わり、一貫した指導に努める。丁寧な言葉遣いの徹底や勤労、挨拶、返事、規範意識の育成に努める。
- ④いじめ・差別や偏見を許さない指導を行い児童の人権感覚を高め、自己肯定感を培う。
- ⑤家庭や地域社会、関係諸機関との連携を密にし、基本的な生活習慣をしっかり身に付けるよう指導していく。また、不登校についても、関係諸機関等との連携を含め、組織として対応していく。

(8) 進路指導

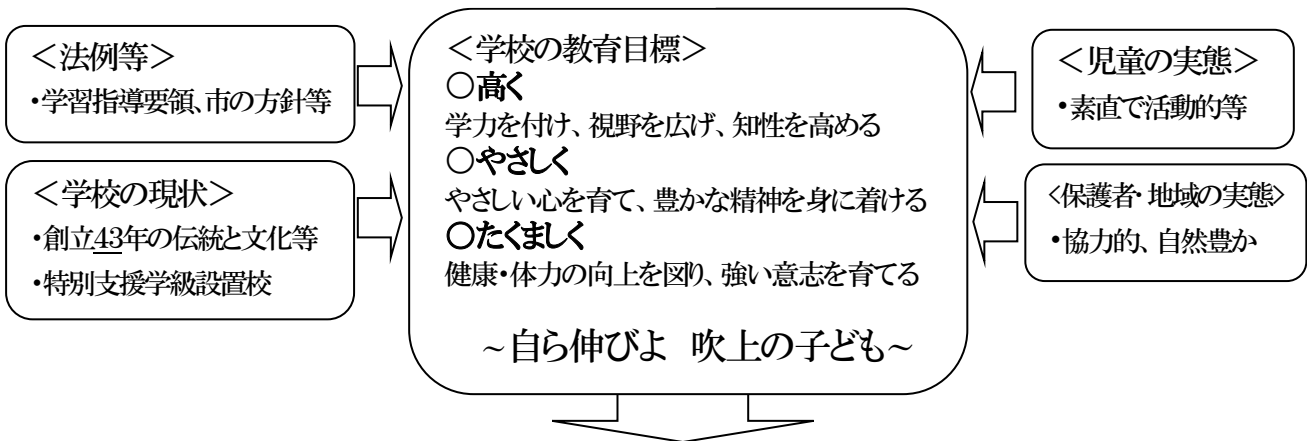
- ①児童が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように、家庭の理解と協力を得ながら、進路指導を行う。
- ②教職員や児童・生徒の交流を通じた中学校との連携を意図的計画的に行い、進路指導の充実を図る。

(9) 特別支援教育

- ①発達障害などのために学習が困難な児童に対して、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、巡回指導員等の助言を参考に個別の指導計画を作成し、これを基にしたきめ細やかな指導を行う。
- ②校内委員会を充実させるとともに、理解研修会を通して共通理解を図り、支援を要する児童にとって適した教育環境が何処であるかを考え、判断を行っていく。
- ③自閉症・情緒障害特別支援固定学級（あおぞら学級）ならび特別支援教室（ひまわり教室）において、支援を要する児童への指導を確実にしていく。
- ④自閉症・情緒障害特別支援固定学級（あおぞら学級）と通常の学級との交流や交流授業を通して、特別な支援を必要とする児童への指導を充実させ、通常の学級における適応指導に活かしていく。
- ⑤外部機関と連携し、協働していく。

令和8年度 学校経営構想

青梅市立吹上小学校長 刀禰 浩子



〈目指す学校像〉

子ども一人一人が輝き、お互いを高め合う学校

個の尊重

一人一人のよさが生きる
(一人一人が大切にされ、自分の場がある)

共生の価値

みんなで学び、高め合う
(みんなで学ぶと楽しい、よくなる)

高く (知)

- 基礎・基本的な学力向上
- ・主体的に学ぶ力の育成
- ・家庭学習の習慣化
- ・図書活動や環境教育の推進
- ICTの効果的な活用
- ・個別最適化の学びの実現
- ・GIGA スクール構想の充実
- 教師の指導力向上
- ・専門性の向上と授業改善
- 地域とともに
- ・体験的活動の重視
- ・カリキュラムマネジメント

やさしく (徳)

- 人権教育の推進
- ・いじめ防止の取組の徹底
- ・自己肯定感の育成
- 道徳教育の充実
- ・道徳授業の充実
- 心の教育の推進
- ・異学年交流の充実
- ・自尊意識と他者への尊重
- 特別支援教育の充実
- ・特別な支援を要する指導の充実
- ・特別支援学級設置校の特色を活用

たくましく (体)

- 健康・体力づくりの推進
- ・体育指導と行事の充実
- ・運動の日常化
- 命を守る教育の推進
- ・安全指導の徹底
- ・自らの命を自分で守る態度や能力の育成
- 健やかな体を支える態度の育成
- ・基本的生活習慣の育成
- ・最後まであきらめずに粘り強く取り組む態度の育成

〈コミュニティスクール〉

- 家庭や地域、関係機関との連携
- 地域に根ざした教育

〈チーム吹上〉

- 学校評価の充実
- 働き方改革の推進